



ドクターがズバリ答える!

受診の目安は? 二重マスクの効果って? 感染症対策のウソ・ホント

根本的な治療が難しく、対症療法にならざるを得ない

感染症とは、ウイルスや細菌などの微生物が体内に入り込み、増殖することで起こる病気の総称。風邪やインフルエンザをはじめ、はしか(麻疹)、風疹、ノロウイルスなどがある。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)もその一つだ。新型コロナウイルスは、細菌と違って抗菌薬が効かず、根本的な治療が難しいこと、症状が急に悪化するケースもあること、世界中で急激に感染が広がっていることなどから問題視されている。さらに、発症前からウイルス排出量が増え、知らずに感染を広げやすいことや、多様な変異株が登場していることなども事態に拍車を掛けている。特に冬は、さまざまな感染症のリスクが高まる傾向にある。そこで、KARADA内科クリニック渋谷院長の田中雅之医師に、正しい感染症対策について伺った。

感染症が流行しやすい冬場は一歩進んだ対策を

感染症対策では何より予防が大切だ。予防は「感染予防」と「重症化予防」の大きく二つに分けられる。新型コロナウイルスに対して、私たちがすぐに行えることの一つが感染予防だ。田中先生も「初期は軽症であったとしても、その後、症状が悪化していくこともあるため、まずは感染しないことが重要」と話す。感染しないためには、現在効果的とされている「マスクをする」「密を避ける」「手洗い・消毒をする」といった基本的な対策を、改めて徹底しよう。それが同時にインフルエンザ対策にもなる。また、新型コロナウイルスのワクチンは感染と重症化の両方が予防できるとされ、期待が集まる。「新型コロナウイルスワクチン未接種の方は、メリット・デメリットを踏まえつつ、いま一度、接種を検討してみてください。」(田中先生)。

感染症専門医に聞いた /

新型コロナウイルス感染症の ウソ・ホント

Q 新型コロナになったら、風邪薬を飲んではいけない

ウソ

軽症の場合など、症状によっては改善する可能性もあるため、市販薬を服用してもよい。ただし、急に状態が悪化するケースも。経過に注意し、保健師や医療機関に適宜相談を。

Q マスクは二重にした方が、感染予防効果が高まる

ホントのこともある

効果が高まることもあるが、そもそもマスクを正しく装着できていることが大前提。サイズが合っているか、隙間ができないか、飛沫を通しにくいかなどを意識した、正しいマスク選びを心掛けて。

Q 新型コロナワクチンの接種後、副反応がなくても抗体はできている

ホント

副反応の出方には個人差があり、ワクチンの効果とは無関係。ワクチン接種は効果的な予防法だとされているため、未接種の方もぜひ検討して。

Q 屋外ならば密ではないので、マスクを外しておしゃべりしてもよい

ウソ

屋外などの開けた場所であっても、飛沫の届く範囲なら感染のリスクはある。公園などで飲酒したり、大勢で屋外レジャーに出掛けたりするのは控えて。



監修 / 田中 雅之
KARADA 内科クリニック渋谷院長。日本感染症学会専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本医師会認定産業医

